

第1回検討会における主な意見について

リチウムイオン蓄電池に係る危険物規制に関する検討会（第2回）

消防庁危険物保安室

第1回検討会における主な意見について

検討の方向性について

- ＜危険性＞
 - リチウムイオン蓄電池は、危険物である電解液が内蔵された状態となっているため、危険物の流出、危険物への引火といった危険性は、他の危険物の貯蔵、取り扱いの場合とは異なる（危険性は比較的低い）。
- ＜充電率と集積方法＞
 - 充電率や集積方法に応じた安全対策を検討するという方向性は、評価できる。
 - リチウムイオン蓄電池は、充電率が高くなると違った危険性を示してくる。このことに対してはプラスアルファの対策が必要。
- ＜実態を踏まえた対策＞
 - リチウムイオン蓄電池は、これまでの危険物規制の考え方では対応できていないところがある。その部分を踏まえた対策を考える必要がある。
 - 実態を調査した上で、安全を前提にリスクに応じた対策について検討を進めるべき。
- ＜検討のポイント＞
 - リチウムイオン蓄電池に関する規制の検討は、急速な需要の拡大からスピード感が求められている。一方で対応を急ぐあまりに安全対策の検討に漏れがあってはならない。
 - 今までの規制は、その時点で想定されるリスクへの対応を検討してきたものと考えられるが、リチウムイオン蓄電池に関する規制の検討にあっては、今後の技術開発などを含め、どこまで将来を見据えたものができるかが重要なポイント。

欧米の規制・基準の調査項目について

- ＜調査の方針＞
 - 海外の規制は根本的な社会制度から違う。日本は失火法があり、火災を起こした人に損害賠償請求するような社会制度になっていない。そのような社会制度の違いなど背景も込みで整理するべき。
- ＜調査のポイント＞
 - 米国、英国のほかドイツについても法令的な基準の整理ができていいるのではと感じる。電気自動車に関しても、参考になるのではと思う。
 - ・ ドイツの自動車会社を視察したことがあるのだが、日本よりも都会に立地しているイメージであり、参考にするには良いのではないか。
 - ・ ドイツの化学メーカーでは、薬品に対する規制対応は日本より厳密に行っている印象を持った。
 - 消火設備のうちスプリンクラー設備がどのように位置づけられ、実際に設置されているのか、丁寧に調査した方が良い。
 - リチウムイオン蓄電池に対してスプリンクラー設備がどの程度有効なのかという観点で調査した方が良い。
- ＜調査を踏まえた検討の方向性＞
 - 法体系や、あるいは安全に対する考え方が諸外国によって異なる。このことは調査、検討を行う上で非常に重要なポイント。

その他

- 今後さらなる急速な電動化シフトに対応していくために安全性を維持した上で、既存アセットの有効活用に向けた標準的な安全対策の全国的な共有がなされることが望まれる。
- 安全性が前提となることは当然ではあるが、経済進捗に対してブレーキとならない対策が望まれる。
- リチウムイオン蓄電池の製造、運搬等の関係業界の実情を踏まえた検討が望まれる。